

## ムナグロ（チドリ科） 全長24センチ

4月から5月にかけては、シギ・チドリ類の春に渡りのシーズンです。今年もムナグロが大仙市下深井にやってきました。

地元S氏の観察によると、4月15日に最初の2羽を確認。飛来数はその後徐々に増え、4月25日には80羽までカウントされました。大曲バイパスと、線路に挟まれた広い田んぼが彼らの中継地点です。ここは、前回紹介したタシギの飛来地と殆ど同じ区域です。渡り鳥にとって、この地は何か惹きつけるものがあるのでしょうか。



休耕田で餌を探している。

ムナグロのダイナミックな渡りの様子が明らかになってきました。

アメリカ合衆国のグループがムナグロの生態をアラスカのツンドラ地帯の繁殖地と、ハワイや太平洋諸島の越冬地で研究し、繁殖地と越冬地であるアメリカ領サモアで標識を装着して渡りの経路、中継地などを調べました。

ここで分かったことは繁殖地からの秋の渡りは太平洋をノンストップで越冬地のサモアまで南下し、春は越冬地から北西に進んで主に日本に立ち寄り、そこからまた北または北東に進路を取って、ロシアやアラスカの繁殖地に渡ることが分かりました。広い太平洋を時計回りの渡りをしていることとなります。



左は成鳥、右は若鳥。



遠目では周りの花に紛れてしまい、よくわかりません。

日本には平均3週間も滞在し、ムナグロにとって日本が重要な中継地であることが論文中で強調されています。赤道付近から、アラスカまでの往復1万キロを旅するムナグロが、毎年大仙市内に飛来していることに驚嘆せざるを得ません。



地面にクチバシを差し込みました。ミミズなどの虫を食べているようだ。



成鳥と比べ、若鳥は可愛らしさが漂います。